

特集 奥内歌舞伎 20年

地域がつなぐふるさとの伝承



子ども歌舞伎
「白浪五人男」日本駄右衛門



子ども歌舞伎「白浪五人男」



恋飛脚大和往来



花魁道中



三番叟



宮下市長は「田名部川回プスター」
と名乗り、会場を沸かせた



奥内歌舞伎保存会
辨田昌則会長



奥内地区で古くから伝承されてきた「奥内歌舞伎」。昭和50年代から10年以上もの間、道具の老朽化や後継者不足のため公演が途絶えた「ふるさとの伝承」が、再興を遂げて今年で20年が経ちました。

「地域の伝統をつなげたい」と復活した奥内歌舞伎の20年には、さまざまな困難もありました。そんなときにいただいたたくさんの方の支援と声援に、「神が私に与えた試練ならば、それを乗り越えるのが私の務め」と心に決めた奥内歌舞伎保存会の井田昌則会長。

新春の1月22日、会場の下北文化会館にはおよそ1200

人の観客が詰め掛け、今か今かと開演を待ちます。

この日の演目は、「三番叟」「子ども歌舞伎白浪五人男」「恋飛脚大和往来」「花魁道中」に加え、親交のある岩手県黒沢尻歌舞伎保存会による舞踊「お七」と「新口村」、横笛奏者博雅氏の特別出演。

とりわけ、豪華絢爛な花魁行列が客席の間を練り歩く「花魁道中」は、実に7年ぶりのお披露目となります。

観客は「花魁道中」の雅に魅了され、粋な「白浪五人男」に「待ってました」の大喝采。

役者は、江戸歌舞伎を奥内に伝えた明治の旅芸人に成り代わり、大観衆を前に舞台を演じ切りました。

奥内歌舞伎新春公演の成功には、役者のみならず、役者の育成、大道具・小道具の作成、衣装の準備から着付けなど、地域の方々の存在は欠かせません。

地域のみなさんが奥内歌舞伎にかける思い、そして伝統を継承し続けることで育まれる地域の力を取材しました。